

## 株主メモ Shareholder Information

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
配当金支払株主確定日	期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
公告の方法	電子公告の方法により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告が行えない場合は、日本経済新聞に掲載します。 公告掲載URL <a href="http://www.meiko-elec.com/ir/pa.shtml">http://www.meiko-elec.com/ir/pa.shtml</a>
上場証券取引所	大阪証券取引所 JASDAQ（スタンダード）
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所（郵便物送付先）	東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
（電話照会先）	 0120-176-417
（インターネットホームページURL）	<a href="http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html">http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html</a>

### 【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。



IR情報につきましては、当社ホームページにも掲載されておりますので、ご覧ください。

<http://www.meiko-elec.com/>



CSR活動2010年版コンテンツを更新しました。ご覧ください。

<http://www.meiko-elec.com/meikoCSR/index.html>

表紙の画像は、LED照明用基板です。



# 成長市場を的確にとらえグローバルに事業を拡大



株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援とご高配を賜り、誠にありがたく厚く御礼申し上げます。

当社第36期(平成23年3月期)第2四半期MEIKO REPORTをお届けするにあたり、インタビューにお答えする形で、当第2四半期の状況と今後の経営戦略についてご説明いたします。

代表取締役社長 **名屋 佑一郎**

## Q 当第2四半期の経営環境と事業成績についてお聞かせください

### A 急激な原材料の高騰や為替変動などが業績に影響

当社グループをとりまく経済環境は、国内外経済の回復や政府の景気対策効果などもあり、一時期緩やかな回復の兆しが見え始めました。しかしながら、欧州経済における財政問題をきっかけに世界経済の回復ペースが減速し、さらに昨今の為替の急激な変動、原材料価格の大幅な高騰などが影響して、世界経済の先行きに対する不透明感が再び強まってきております。

このような中、当社グループにおいて昨年から展開してきたグローバル規模での販売拡大や新規顧客の開拓に注力した結果、受注は堅調に推移してまいりました。しかしながら、為替の急激な変動や武漢第二工場の立ち上げ遅れ等により、業績は少なからず影響を受けました。

これらのことにより、当第2四半期の業績は、連結売上高は383億7千5百万円(前年同期比14.0%増)、連結営業利益20億9百万円(前年同期比29.4%増)、連結経常利益12億8千9百万円(前年同期比15.3%増)、連結四半期純利益8億7千3百万円(前年同期比12.2%増)となりました。

## メイコグループの企業理念

顧客に最高の価値とサービスを提供し社会に貢献する

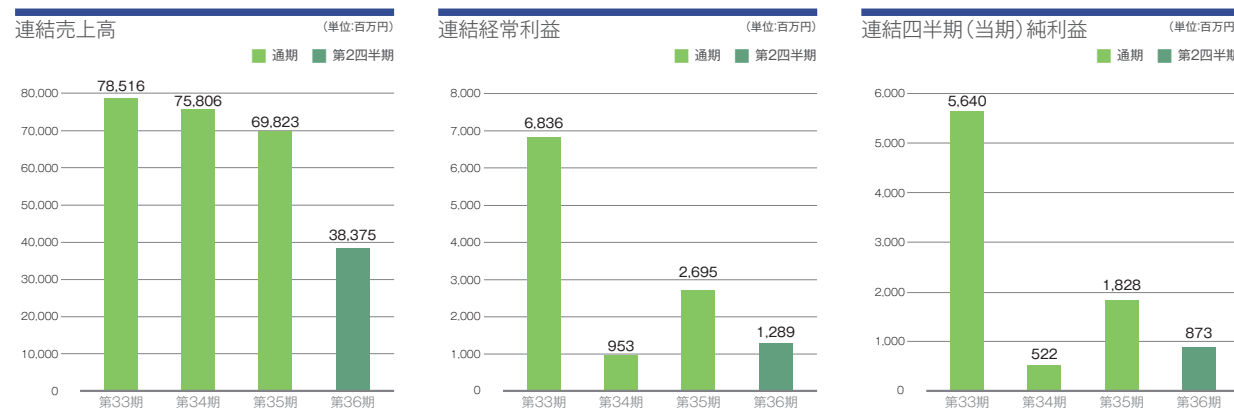
お客様の満足度を高め、顧客に信頼される企業を目指します。

最高への挑戦

「最高の技術」「最高の品質」「最高の経営システム」を目指し、挑戦し続けます。

企業価値を高め社員と社会に幸福を

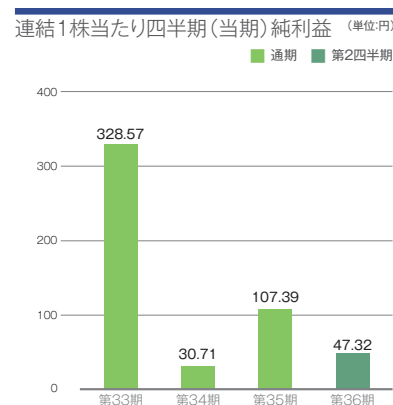
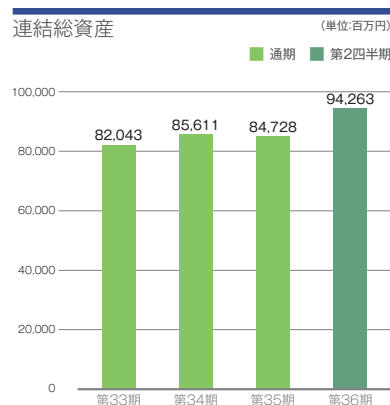
企業価値を高めることにより、株主、社員、取引先に成果を還元し、豊かな社会の創造に貢献します。



## Q 通期の業績見通しをお聞かせください

### A 海外顧客の売上拡大と新規基板の成長に期待

通期の見通しについては、新規製品の旺盛な需要とグローバルな新規顧客の獲得によりアジア、北米、欧州企業向けの市場が拡大しており、今後も堅調に推移していくことが予想されます。自動車関連での欧州での受注拡大が見込まれるほか、通信・モバイル機器における新規商品の需要の増加や、環境関連の市場が堅調に推移すると思われます。当社グループはこれらの動向をしっかりとらえて、生産体制と販売体制を整えていくよう計画しております。しか



通期の見通し	
▶連結売上高 790億円	▶連結経常利益 42億円
▶連結営業利益 53億円	▶連結当期純利益 28億円

しながら、昨今の急激な円高や原材料高、および中国の件費の高騰が収益の圧迫要因となっていることに加え、人民元切上げの動きも見られ景気の先行きは未だ不透明な状態です。これらを踏まえ、通期の業績予想については、連結売上高790億円(前期比13.1%増)、連結営業利益53億円(前期比39.7%増)、連結経常利益42億円(前期比55.8%増)、連結当期純利益28億円(前期比53.1%増)と設定いたしました。

## Q 今後戦略面で強化するポイントなどをお教えください

### A 成長市場を的確にとらえグローバルに販売を拡大

当社グループでは、今後も電子回路基板市場での優位性を強化すべく、新しい成長市場を的確にとらえながら新規の生産拠点への投資をおこなってまいります。中国武漢第二工場では、今後市場拡大が期待できるスマートフォン向け基板を始め、LEDテレビ、ハイブリッドカーや電気自動車、太陽光発電などの環境関連分野向け基板の生産を開始いたします。またベトナム工場が、電子回路基板の大規模生産拠点としてこの冬に竣工いたします。今後設備の搬入後、特に市場の拡大が期待される新しい電子回路基板を中心に来期あたりから本格的な生産活動を開始する計画です。また販売についても、グローバル市場での販売活動を今後も積極的に展開してまいります。これまでの日本の顧客企業に加えて欧州や北米、アジアの企業に対する売上拡大を図っていくとともに海外での人材採用も強化してまいります。そして、拡大していく市場をしっかりと見極めながら、業績向上を目指してまいります。

## Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします

### A 内部留保の充実と株主の皆様への利益還元に向け努力を

株主の皆様への利益還元につきましては、当社の市場における競争力の維持・強化のための内部留保の充実とのバランスを熟慮したうえで、業績に応じた配当を実施させていただくことを基本方針としております。

当第2四半期末の中間配当金につきましては、現在の事業環境および経営成績を十分踏まえ、前年同期比2円増配の1株当たり12円とさせていただきます。

今後も株主の皆様のご期待にお応えできるよう、さらなる業容と収益の拡大を推進し、企業価値向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



TOPICS トピックス

### 新ジャスダック市場において「JASDAQ-TOP20」に選定されました

このほど、大阪証券取引所とジャスダック証券取引所との合併に伴って新しく始まった新ジャスダック市場において、当社は「JASDAQ-TOP20」に選定されました。これは、市場における流動性や上場時価総額等の多面的な尺度によって、大阪証券取引所によりジャスダックを代表する銘柄として選定されたものです。今後、大阪証券取引所でTOP-20を対象とした投資信託の組成など新しい商品を提案していく予定とのことです。



身近な  
マイコー  
Vol.4

### マイコーの技術は こんなところでも活躍しています

#### 自動車はエレクトロニクスの宝庫

私たちの生活に欠かすことのできない自動車は、実はエレクトロニクスの宝庫です。1台につきおよそ数十種類の電子回路基板が使われるといわれています。生命に関わる製品だけに非常に高度な信頼性が要求されるため、過酷な耐久試験を経て世の中に供給されています。また、近年世界中で注目されているハイブリッドカーや電気自動車では、要求される機能がより多様化してきており、電子回路基板の重要性はますます高まっています。



**安全**

衝突回避  
レーザーセンサ応用システム  
ナイトビジョン  
車載カメラ

**環境**

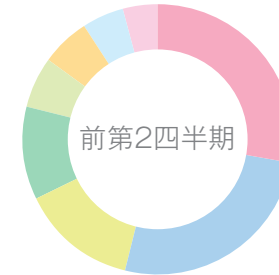
ハイブリッド  
EV  
エンジンECU

**快適**

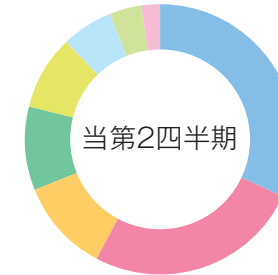
インテリジェントクルーズ  
電子制御サスペンション  
カーナビゲーション

#### 電子回路基板売上高構成比率

##### 商品別

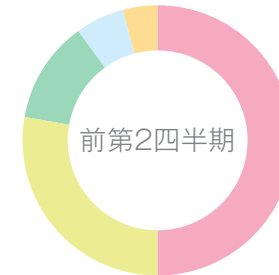


- 薄型TV …… 28%
- 自動車 …… 26%
- デジタル家電 …… 14%
- パソコン関連 …… 11%
- アミューズメント …… 6%
- 通信機器 …… 6%
- 事務機 …… 5%
- その他 …… 4%

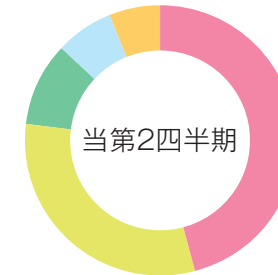


- 自動車 …… 32%
- 薄型TV …… 26%
- 通信機器 …… 11%
- パソコン関連 …… 10%
- デジタル家電 …… 9%
- 事務機 …… 6%
- アミューズメント …… 4%
- その他 …… 2%

##### 地域別

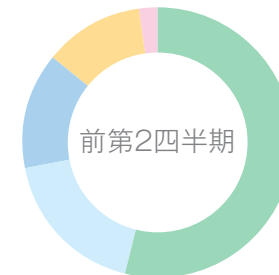


- 日本国内 …… 50%
- アジア …… 28%
- アセアン …… 12%
- 北米 …… 6%
- 欧州 …… 4%

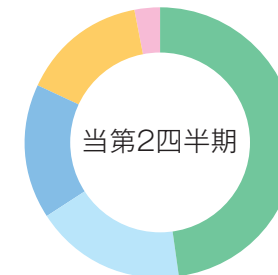


- 日本国内 …… 46%
- アジア …… 31%
- アセアン …… 10%
- 北米 …… 7%
- 欧州 …… 6%

##### 品目別



- 4層板 …… 54%
- 6層板以上 …… 18%
- ビルドアップ …… 14%
- 両面板 …… 12%
- その他 …… 2%



- 4層板 …… 48%
- 6層板以上 …… 18%
- ビルドアップ …… 16%
- 両面板 …… 15%
- その他 …… 3%

第2四半期連結貸借対照表 (単位:百万円)

科目	当第2四半期連結 会計期間末 (平成22年9月30日現在)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日現在)	科目	当第2四半期連結 会計期間末 (平成22年9月30日現在)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日現在)
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>39,026</b>	<b>33,413</b>	<b>流動負債</b>	<b>33,845</b>	<b>26,069</b>
現金及び預金	4,221	4,229	<b>固定負債</b>	<b>24,038</b>	<b>20,491</b>
受取手形及び売掛金	17,178	15,081	<b>負債合計</b>	<b>57,884</b>	<b>46,560</b>
商品及び製品	3,024	3,063	<b>純資産の部</b>		
仕掛品	2,736	2,116	<b>株主資本</b>	<b>40,635</b>	<b>39,947</b>
原材料及び貯蔵品	4,204	3,681	資本金	10,545	10,545
その他	7,675	5,255	資本剰余金	12,135	12,135
貸倒引当金	△ 13	△ 14	利益剰余金	18,548	17,859
<b>固定資産</b>	<b>55,236</b>	<b>51,314</b>	自己株式	△ 593	△ 593
<b>有形固定資産</b>	<b>50,587</b>	<b>46,120</b>	<b>評価・換算差額等</b>	<b>△ 4,262</b>	<b>△ 1,784</b>
建物及び構築物(純額)	16,593	17,109	その他有価証券評価差額金	6	15
機械装置及び運搬具(純額)	20,955	22,899	繰延ヘッジ損益	△ 152	△ 98
土地	1,944	1,944	為替換算調整勘定	△ 4,116	△ 1,701
建設仮勘定	10,453	3,495	<b>少数株主持分</b>	<b>5</b>	<b>5</b>
その他(純額)	641	672	<b>純資産合計</b>	<b>36,378</b>	<b>38,167</b>
<b>無形固定資産</b>	<b>479</b>	<b>553</b>	<b>負債純資産合計</b>	<b>94,263</b>	<b>84,728</b>
投資その他の資産	4,169	4,640			
<b>資産合計</b>	<b>94,263</b>	<b>84,728</b>			

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

第2四半期累計期間連結損益計算書 (単位:百万円)

科目	当第2四半期連結累計期間 (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	前第2四半期連結累計期間 (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	前連結会計年度 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)
売上高	38,375	33,676	69,823
売上原価	32,267	28,811	58,916
売上総利益	6,107	4,865	10,906
販売費及び一般管理費	4,098	3,311	7,112
営業利益	2,009	1,553	3,793
営業外収益	172	287	369
営業外費用	892	722	1,467
経常利益	1,289	1,118	2,695
特別利益	4	95	96
特別損失	85	218	490
税金等調整前 四半期(当期)純利益	1,208	994	2,300
法人税等	335	215	471
少数株主損益調整前 四半期純利益	873	—	—
少数株主利益	0	0	0
四半期(当期)純利益	873	778	1,828

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

第2四半期累計期間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位:百万円)

科目	当第2四半期連結累計期間 (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	前第2四半期連結累計期間 (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	前連結会計年度 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	66	2,592	8,841
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 9,963	△ 3,364	△ 6,058
財務活動による キャッシュ・フロー	10,046	1,133	△ 3,742
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 156	△ 266	△ 177
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△ 6	94	△ 1,137
現金及び現金同等物の 期首残高	4,008	5,146	5,146
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	4,002	5,240	4,008

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## メイコーのCSR

私たちのお客様は日本のみならず世界へと広がり、おのこの地域において社会・人々、そして、地球の恵みに支えられています。私たちは常に感謝の念を忘れず CSR 活動を推進します。

### 地球温暖化防止に向けたCO<sub>2</sub>削減への各工場の取り組み

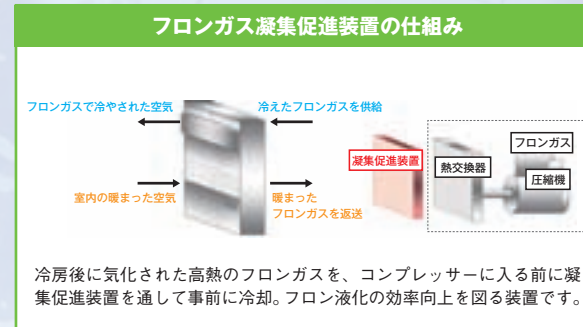
2010  
活動紹介

1

#### 神奈川工場における 空調省エネ化の工夫

電子回路基板の製造工程ではさまざまな機器が使われており、機器から発生する熱を除去するために空調がフル稼働しています。特に夏場の冷房負荷は非常に大きなものです。そこで神奈川工場では空調の効率を上げて省エネを図るため、フロンガス凝集促進装置を設置し、さらにハイブリッドファンを導入して空調に関する電力量の削減も図りました。

その結果、使用電力量およびCO<sub>2</sub>排出量を17%削減することに成功しました。

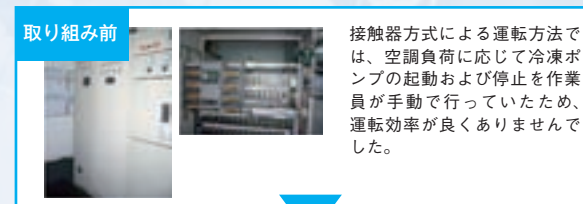
2010  
活動紹介

2

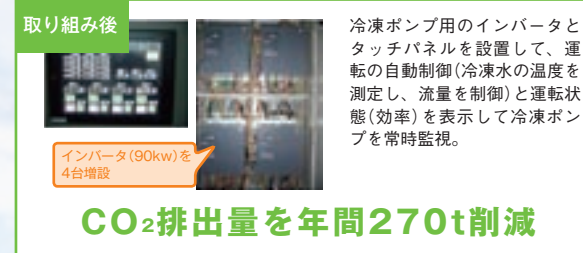
#### 広州工場における 冷凍機・コンプレッサーの省エネ化

現在、急速な経済発展が続く中国ではCO<sub>2</sub>排出量も大幅に増加しており、CO<sub>2</sub>削減への取り組みが急がれています。

そんな中、メイコーの中国・広州工場は01年に第一工場、04年に第二工場が操業を開始しました。メイコーはグループとして、そして中国という国家の取り組みに寄与するために、広州工場のCO<sub>2</sub>排出量削減に取り組んでいます。特に、製造設備に比べて電力消費が非常に大きいインフラ系の冷凍機とコンプレッサーの省エネ化を推進しました。冷凍機に関してはインバータ化で回転数をきめ細かに制御するシステムの導入、コンプレッサーについては台数制御システムを導入することで無駄を省き、年間270tのCO<sub>2</sub>を削減することができました。



インバータ化 制御システム導入



#### 会社概要 (平成22年9月30日現在)

商号 株式会社メイコー  
設立 1975年11月25日  
資本金 105億4,563万円  
従業員数 11,697名(連結)  
(国内 1,000名)  
(海外 10,697名)

主な事業内容 〈電子回路基板〉 両面・多層貫通基板、高密度ビルドアップ基板、高放熱・大電流対応基板、パターン設計、原版、治工具  
〈電子機器〉 基板実装、基板検査機器、映像関連機器

主な事業所 〈本社〉 神奈川県綾瀬市  
〈営業所〉 本社営業部、名古屋、郡山、大阪、大宮、長野、大崎営業部、香港、天津、広州、上海、米国サンノゼ  
〈工場〉 神奈川、福島、山形、宮城、中国広州、中国武漢、ベトナム

#### 役員 (平成22年9月30日現在)

代表取締役社長執行役員 名屋 佑一郎  
取締役専務執行役員 名屋 精一  
取締役専務執行役員 平山 隆英  
取締役常務執行役員 名屋 晴行  
取締役常務執行役員 鈴木 哲郎  
取締役執行役員 松浦 正憲  
常勤監査役 西脇 康夫  
監査役 菅原 邦宏  
監査役 後藤 豊

#### 株式の状況 (平成22年9月30日現在)

発行可能株式総数 63,200,000株  
発行済株式の総数 18,460,550株  
(自己株式 942,770株を除く)  
株主数 5,255名

#### 大株主 (上位10位)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
名屋 佑一郎	4,695	25.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,558	8.4
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	851	4.6
名幸興産株式会社	608	3.3
有限会社ユーホー	521	2.8
名屋 晴行	487	2.6
名屋 精一	438	2.4
株式会社三井住友銀行	377	2.0
株式会社三菱東京UFJ銀行	375	2.0
THE CHASE MANHATTAN BANK, N.A. LONDON SECS LENDING OMNIBUS ACCOUNT (常任代理人(株)みずほコーポレート銀行決済営業部)	372	2.0

1.当社は、自己株式942,770株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。  
また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。  
2.当社は、株式会社三井住友銀行の持株会社である株式会社三井住友フィナンシャルグループの株式2,717株(持株比率0.0%)、株式会社三菱東京UFJ銀行の持株会社である株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループの株式52,420株(持株比率0.0%)を保有しております。

#### 所有者別株式分布状況 (平成22年9月30日現在)

